

16世紀のヴェネツィア。王侯貴族が頂点の階級社会の時代にレースは誕生しました。大阪成蹊短期大学でファッション文化を専門とする百々 徹さんはいいます。

「今までにない装飾品を身につけ、流行を作ることを競った貴族は、職人へ潤沢な資金と時間を与えた。職人は創意を凝らし、レースが誕生したのです」。下に紹介したニードルポイントレースとボビンレースを双壁として、レースの技術は研鑽されていきます。17世紀後半、レースは最上の贅沢品かつ外貨獲得の政治的道具でした。ほとんどのレースを輸入に頼り財政難に陥っていたフランスは、国内生産を強化すべく王立のレース製作所を設立。次第に欧州中の宮廷で人気を博すまでに成長した結果、レース文化は18世紀のフランスで最盛期を迎えます。「ルイ15世は結婚式の祭壇を飾る4対×63寸の敷物

## 受け継がれる、 レースの 今

を、1000人がかりで10年かけて作らせた。レースを装うことは、職人が費やす「時間」を装うことなのです」。レースの価値は青天井。しかし産業革命、仏革命が起き人々の価値観は変容します。19世紀半ば、機械の発達で既製服が普及し、誰もが洒落を楽しむように。「職人が丹誠込めた「本物」を装うことが価値とされた時代から、大衆消費社会になり「本物に見えること」が重要になった」と百々さん。同時に、富の象徴のレースは、女性を美しく彩るものになりました。そして今、レースは新境地を迎えています。「現在では、レースは「風通しのよさ」を象徴しているのかもしれない。閉塞的な時代の中で、見た目も着心地も風通しのよいレースを装うことは、心の開放感に繋がります」。美しき糸の宝石は、時代とともに役割を変え受け継がれていきます。

レースハンカチ2万2000円/和光



### ボビンレース

布を織り上げたあとに裾から糸がほつれないよう、経糸を交差させて縁を装飾する房結びの技術から派生した技法で、平面的な仕上がりが特徴。フランドル(ベルギー)で発祥したとされます。写真は、王族もしくは貴族女性のものとしてされるクリノリン(半円球形ドレス)。1860年代頃に流行しました。最高品質の亜麻を生産するフランドルと、卓越した漂白技術を有するネーデルラント(オランダ)によって、純白のドレスが完成します。



### ニードルポイントレース

16世紀前半、ヴェネツィアで発祥。織り上がった生地から糸を抜いたり寄せたりして空間を作り、かがり縫いで透け感のある模様を作るドローンワークと、布の一部を縁取るように刺繍し、内部を切り抜き模様を作るカットワークを刺繍職人が発展させたもの。写真は、フランス国内10か所の王立のレース製作所の一つ、アランソンで18世紀に作られたカラー(襟飾り)。「清潔」を礼儀とする宮廷社会において、レースは礼を尽くす装いでした。

